

震源インバージョンワークショップ

～震源インバージョンは地震現象をどこまで解像できるのか～

1. 開催日: 2023 年 7 月 4 日 (火)・5 日 (水)

2. 開催場所: 東京大学地震研究所 1 号館会議室 + Zoom 配信 (ハイブリッド開催)

3. 研究集会の概要

本研究集会は、震源インバージョンに携わる若手研究者が中心に集い、「震源インバージョンにより推定されたモデルは地震現象をどこまで解像できるのか」を問いに掲げ、モデルの有する不確定性や解釈時の留意点の共有を行い、また、現象により良く迫るための逆解析理論・アプローチの構築に向けた実践的な議論を行います。

4. 集会ウェブサイト: <https://rokuwaki.github.io/SIW/>

5. 謝辞: 本研究集会は、東京大学地震研究所共同利用 (2023-W-04) の援助を受けています。

6. 発表タイムテーブル (次ページ)

7. 口頭発表について

発表者はご自身のコンピュータで Zoom に入室していただき、Zoom にて発表画面を共有しながら、ご発表ください。Zoom 配信内容は配信トラブル等に備えバックアップ用に録画させていただきます。ただし録画した内容は公開せず、オンデマンド配信等も行いません。

8. ポスター発表について

発表方式は自由です。当日はポスターボード (A0 サイズを掲示できる大きさ・縦長) をご用意します。ラップトップ等を使った気軽な発表・議論も OK です。ポスター発表の Zoom 配信は行いません。

1 日目・2023 年 7 月 4 日 (火)

	12:00–12:15	奥脇亮	opening
S01	13:45–14:15	八木勇治	高自由度なモデルを用いた震源過程解析の意義について
S02	14:15–15:00	井出哲 *	How to understand earthquakes in hierarchical structure?
	13:15–13:30		休憩
S03	15:20–15:50	柴田律也	日本の内陸地震における小スケールな断層破壊伝播の指向性
S04	15:50–16:20	田中優介	状態空間モデルに基づく西南日本の地震間断層すべり・ブロック運動の時空間発展の大規模同時推定
P01	16:20–17:30	山谷里奈	CMT analysis of S-net data (仮)
P02	16:20–17:30	岡崎智久	Scientific Machine Learning for Geophysical Modeling
P03	16:20–17:30	縣亮一郎	Physics-informed neural network に基づくベイズアン地震波トモグラフィの屈折初動走時実データへの適用
P04	16:20–17:30	佐藤大祐	非線形フルベイズ推定の事前情報への過剰適合と新しい階層モンテカルロ法による解決策
P05	16:20–17:30	今関俊	トランスディメンショナルインバージョンによる 2008 年岩手・宮城内陸地震の断層すべり評価
P06	16:20–17:30	久保久彦	陸海の地殻変動データに基づく海域の浅い地震の震源過程解析
P07	16:20–17:30	山口諒	2021 年サウスサンドウィッチ諸島津波地震の複雑な破壊過程
P08	16:20–17:30	高航宇	The development process and analysis of the 2010 Qinghai earthquake
P09	16:20–17:30	奥脇亮	How much can we resolve earthquake rupture geometry?

2 日目・2023 年 7 月 5 日 (水)

S05	10:00–10:30	吉田圭佑	繰り返し地震の破壊過程の解像 (仮)
S06	10:30–11:00	平野史朗	震源時間関数形状のパラメタ化
	11:00–11:20		休憩
S07	11:20–12:05	福田淳一 *	断層すべりインバージョンにおける不確実性の推定 (仮)
	12:05–13:45		休憩
S08	13:45–14:15	野田朱美	プレート境界の力学的カップリング・インバージョン
S09	14:15–14:45	久保田達矢	2011 年東北地震の三陸沖浅部の地震時すべり・応力降下分布の推定
	14:45–14:55	奥脇亮	open discussion & closing

S: 口頭発表、P: ポスター発表、*: 招待講演